

EUSI メールマガジン Vol. 004 EUSI イベント参加報告・EUSI 研究者執筆情報

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI イベント報告「Asia-EU International Conference」参加報告】

2012年2月2・3日にプサンで開催されたAsia-EU International Conferenceでは、"EU-Asian Relationship and Cooperation"というテーマの下、様々なグローバル・ 이슈に直面するEUとアジアに焦点をあてたプレゼンテーションが多くなされた。

オランダに居住するトルコ出身のクルド人の活動に関して、国際社会学の視点から研究を進めてきた報告者は、*Dutch Immigration Policy and Kurdish Activities: EU and Turkish Accession* というタイトルでプレゼンテーションの機会をいただいた。

欧州評議会の2006年の調査ではオランダのクルド人は7~8万人とされ、多くが1960年代以降トルコから移動した外国人労働者や亡命者、その家族や後継世代である。プレゼンテーションにおいては、先生方や院生から貴重な指摘・助言をいただいた。また、EU域内のクルド人という視点から研究を見直すきっかけともなった。

各プレゼンテーションに対して質疑応答の時間が足りなくなるほど議論は活発に行われ、EUに関わる研究の広がりや発展を感じた。また各大学からの先生や院生との交流は、今後の研究への大きな刺激となった。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

(寺本めぐ美・津田塾大学大学院国際関係学研究所 後期博士課程)

本年2月2日・3日に開催された「Asia-EU International Conference」にEUSI所属の大学院生として参加した。この試みはアジア・太平洋諸国のEUセンター配下の大学院生による、EU研究の国際学術カンファレンスである。

このような国際的なカンファレンスに参加させて頂く上で、自らの研究に糧になるのは、何と言っても自らの研究水準や分析視角をより相対的に位置付けることができること、そして同じような研究テーマを共有する研究者仲間とのネットワークを拡げることができることである。

私のようにEU・中国関係を研究する場合、日本国内で研究するだけでは、どうしても偏りが出てくる。この点で、特に台湾の研究者からのフィードバックは極めて貴重なものであった。彼らは中国語の資料を駆使し、また台湾という中国とは異なる立場からEU・中国関係を見ているため、多少異なる視角はあるものの、日本国内での学術報告では決して得られないほどの重厚な研究蓄積が

あり、その意味で数多くの貴重なフィードバックを頂くことができた。

また、私のように外交史研究の立場から EU 研究を見るだけではなく、環境やエネルギー・教育・市民社会・通貨などの特定の政策分野に関する現状分析や他のアジアの国々と EU との関係(例えば日・EU 関係や EU・韓国関係など)の研究など、決して自らの研究アプローチに囚われるのではなく様々なディンプリンから EU を見ることで、より視野を広げることができるのは何よりの収穫だった。

(林 大輔・慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程 EUSI 慶應分室)

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

- 小川英治「欧州政府債務危機の全貌 原因と進行」

『国際問題』第 611 号(2012 年 5 月)6-16 頁

<http://www2.jiia.or.jp/ebook/latest.pdf>

http://www2.jiia.or.jp/kokusaimondai_archive/2010/2012-05_002.pdf

(内容 欧州政府債務危機に対する問題解決策としていくつかの方策(財政再建と債務削減、欧州金融安定基金[EFSF]や欧州安定化メカニズム[ESM]などのセーフティーネットの整備)がとられているが、本質的には、欠如している財政規律を確立して財政当局の信認を回復することが必要である。そのためには、財政再建に関する確固たる計画を可視的に提示し、強力に着実に実行していくことが第一である。)

- 田中俊郎「欧州経済危機と EU 統合のゆくえ」

『海外事情』第 60 巻第 5 号(2012 年 5 月)2-17 頁

- 嘉治佐保子「ユーロの行方 欧州統合の将来」

『国際問題』第 611 号(2012 年 5 月)37-45 頁

<http://www2.jiia.or.jp/ebook/latest.pdf>

http://www2.jiia.or.jp/kokusaimondai_archive/2010/2012-05_002.pdf

(内容 ユーロ危機開始以降、アジアはじめ世界各地は通貨同盟に懐疑的になっている。しかし、単一通貨を手放せば、それだけで経済が安定するわけではない。また単一通貨さえなければ、必ず経済が安定していたわけでもない。本稿ではこのことを指摘しながらユーロの行方を分析し、欧州の課題としてガバナンス改革の重要性を強調する。これによって、東アジアなど他の地域に対する示唆についても考えたい。)

- 杉崎京太「世界市場における『制度設定者のレント』をめぐって」

『津田塾大学紀要』第 44 号(2012 年 3 月)69-75 頁

(内容 「クリエイターズ・レント」論の基本命題を整理することにより、ユーロ圏の中心・周辺関係におけるレント配分の不均衡問題について考えるステップとなる小論。)

- 中西優美子「EU 債務危機と法制度的対応」

『時の法令』4 月 15 日号 1903 号(2012 年)66-77 頁

<http://garyusha.com/modules/bulletin/article.php?storyid=467>

(内容 ギリシャ危機に端を発する EU 債務危機に直面して、EU 及び構成国がどのような措置をとったかを債務危機に対する救済措置と債務危機の再発防止措置の 2 つに分けて法的観点から説明したものである。)

- 中西優美子「EU における環境法違反に関する司法アクセス権(オーフス条約 9 条 3 項)の実効性」『貿易と関税』第 60 巻第 4 号(2012 年 4 月)106-98 頁。

(内容 オーフス条約 9 条 3 項は市民の司法アクセス権を定めているが、EU においてはこれを実施する措置が採択されていない。できるだけこの条文の実効性を確保しようと積極的な判示をした欧州司法裁判所の C-240/09 事件の判例研究。)

- 林秀毅「人民元の国際化と欧州危機」
『日本経済新聞』(2012 年 4 月 13 日夕刊「十字路」)

(内容 中国人民元と同様に、欧州危機についても、短期的な対策だけでなく、長期的な成長戦略が求められている。)

- 林秀毅「欧州危機の行方」『中部経済新聞』(2012 年 6 月 9 日「視点」)

(内容 ギリシャがユーロを離脱しても、市場の信認を得るケースは非常に限られている。EU 首脳会議でスペインの金融部門への救済策を打ち出せるかどうか焦点に。)

- 林秀毅「ECB は緊急利下げも、ギリシャ・ユーロ離脱の成算」
日本経済研究センター『欧州債務危機レポート』(2012 年 6 月 8 日)
<http://www.jcer.or.jp/column/hayashi/index120608.html>

(内容 ECB は、今後のギリシャ再選挙、スペインの銀行救済をめぐる情勢次第では、次回 7 月の政策理事会を待たず、緊急利下げなど思い切った政策を打ち出すことに。)

【EUSI イベントご案内】

公開講座「フィンランドから見た EU-親 EU と反 EU の意味するもの」

石野裕子「反 EU 政党『真のフィンランド人』-その歴史的起源と政策的特徴-

カウコ・ライティネン「フィンランドの教育システムと欧州統合」(言語: 日本語)

2012 年 7 月 7 日(土) 13:00-17:00

津田塾大学 小平キャンパス 7 号館 1F 中島記念ホール

http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20120707_publiclecture.html

【EU に関するニュース】

2012 年 5 月 14 日 駐日欧州連合代表部、「EU があなたの街にやってくる」開催(6 月 9 日まで)

2012 年 5 月 16 日 オランダ仏内閣発足。首相に新欧州派エロー氏、外相にファビウス元首相など重量級組閣

2012 年 5 月 16 日 Eurostat、3 月のユーロ圏貿易収支を発表。86 億ユーロの黒字。前年同期比 4%輸出増

- 2012年5月17日 トリシェ ECB 前総裁、ユーロ救済策として EU 通貨管理権限強化を提案
2012年5月17日 モスコビシム新財務相、EU 財政協定について経済成長を含めて見直すべきと強調
2012年5月18日 日・EU 首脳、G8 首脳会議会期中に会談。日 EU・EPA など協議するも進展なく終了
2012年5月19日 G8 首脳会議、欧州の経済成長と財政再建の両立を目指す共同宣言を採択
2012年5月19日 モンティ伊首相、G8 首脳会議で欧州規模の銀行預金保証制度の創設案を提示
2012年5月19日 駐日欧州連合代表部、ヨーロッパハウス・オープンデー開催
2012年5月20日 NATO 首脳会議シカゴで開催。2018年完成の欧州ミサイル防衛の初期運用開始を宣言
2012年5月20日 セルビア大統領選挙、民族派の野党ニコリッチ党首勝利。翌21日アシュトン EU 上級代表
声明発表
2012年5月21日 日・EU 外相、NATO シカゴ首脳会議会期中に会談。イラン・アフガニスタン情勢に関して意
見交換
2012年5月21日 韓国政府知識経済部、貿易統計発表。EU・韓国 FTA 発効後、EU 向け関税引下げ品目輸
出は 16.1%増
2012年5月22日 欧州委員会・ECB・IMF の合同調査団、財政再建進捗と金融支援第4次審査のためポルト
ガルを訪問
2012年5月23日 ブリュッセルにて欧州理事会非公式夕食会合。ギリシャの緊縮策実施とユーロ圏残留希望を
表明
2012年5月23日 シュヴァイスグート駐日欧州連合代表部大使、新「一橋講堂」記念式典で祝辞
2012年5月24日 欧州議会、中国に対して北朝鮮脱出住民(脱北者)の強制送還の停止を求める決議案を採択
2012年5月25日 第10回 EU 映画祭「EU Film Days」、東京国立近代美術館で開催(6月19日まで)、21作
品上映予定
2012年5月25日 EU、アルゼンチンの輸入規制に対し、WTO で異議を表明
2012年5月27日 アシュトン EU 上級代表、シリア問題に関する非難声明
2012年5月27日 オランダ世論調査発表、EU 財政規律支持の5政党の支持率が過去1カ月で急低下
2012年5月28日 ギリシャ財務省、ギリシャ大手4行に総額180億ユーロの資本注入。国内銀行の流動性回復
2012年5月29日 欧州議会人権小委員会、北朝鮮の人権状況に関する公聴会を開催
2012年5月30日 欧州委員会、加盟国各国の財政措置と経済改革のための包括的・具体的政策提言書を採択
2012年5月30日 欧州委員会、ブルガリアなど8カ国のユーロ導入収斂基準評価報告書(Convergence
Report)を採択
2012年5月30日 アシュトン EU 上級代表の報道官、イランにおける死刑執行状況に対して非難声明発表
2012年5月30日 韓国政府企画財政部、経済統計発表。EU・韓国 FTA 発効後、EU の対韓国投資額は
60.5%増
2012年5月31日 EU 貿易担当相理事会、日・EU EPA 事前協議終了を報告。独仏伊ら9カ国は対日 EPA に
慎重姿勢を表明
2012年5月31日 ドラギ ECB 総裁、欧州議会で「銀行同盟」(共通清算・預金保証・中央監督制度)構築を訴え
2012年5月31日 第31回 EU・中国人権対話、ブリュッセルで開催

【編集後記】

EU は現在、ギリシャ再選挙を巡る懸念に、スペインの銀行救済問題が緊迫化し、
現在、大きな分岐点に差し掛かっているといえます。しかし同時に、危機対応
のための応急策が取られるだけでなく、財政健全化と成長戦略の両立といった、
中長期的なEUの制度設計につながる議論が始まっている転移も注目しています。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

冒頭の報告にあるアジア・EU 研究国際カンファレンスですが、元々は2010年に
日韓2カ国にある6つのEUセンター(日本: EUSI・EUIJ 早稲田・EUIJ 関西、韓国:
ソウル国立大学-KIEP EU センター・延世大学校-SERI EU センター・釜山大学校
EU センター)による「日韓3+3」として始まった学術交流の枠組でした。2010年は

EUSI が主催団体となって、第 1 回となる国際カンファレンスを開催しています。
今後も EU 研究を通じて、更なる学术交流の輪が広がってゆくことを祈念しています。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
